



県病医療ニュース

〒870-8511 大分市豊饒二丁目8番1号 TEL097-546-7111(代表) 内線7712:県病ニュース係



※当ニュースへのご意見・ご感想は県病ウェブサイトをご利用ください。

大分県立病院ウェブサイトはこちら

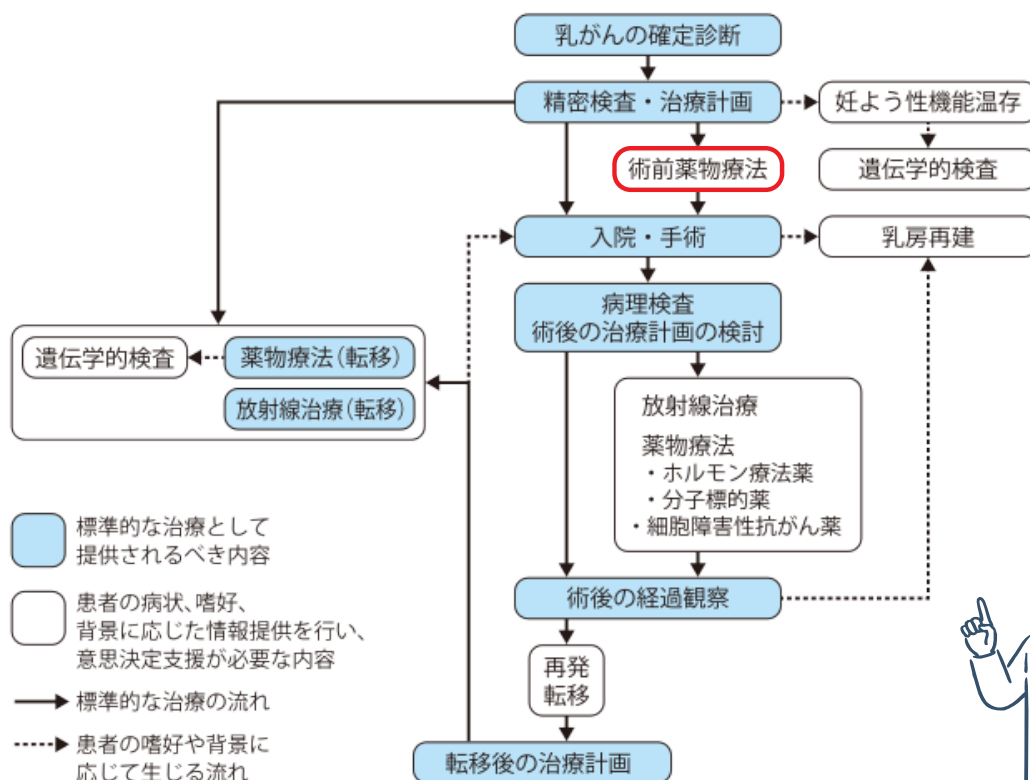
乳腺外科

乳がんの治療 ～ひとりひとりに必要な治療を～

年間9万5千人の人が乳がんにかかり、年間1万5千人の方が乳がんで亡くなっています。そして乳がんの治療成績を少しでも向上させるための方法が今もなお全世界で開発されています。

今回はその一つ、術前薬物療法についてのお話です。がんといえばすぐに手術を考えられる方も多いと思いますが、最近ある特定タイプの乳がんでは、手術の前に標準的な抗がん剤治療を行い、その後手術を行ったうえでがんがどれくらい小さくなったかを調べることで、追加の治療が必要かどうかを検討する方法が行われるようになりました。

この方法の良い点は、標準的な治療法で十分な人と、追加で治療が必要な人との判別ができ、ひとりひとりが必要な治療を受けることができるという点です。さらに、追加で治療を受けた人の治療成績も向上することで、再発率の低下ひいては生存率の向上へとつながっています。当科でも積極的に術前治療を導入しています。



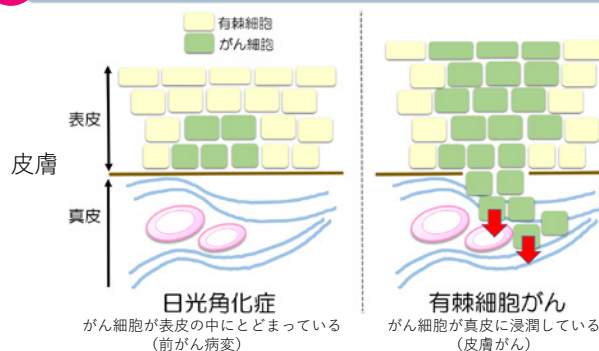
(乳腺外科 副部長 増田 隆伸)

国立がん研究センターHPより引用

皮膚の前がん病変とは

前がん病変とは、がんになる手前の状態をさします。皮膚の前がん病変の一つに日光角化症という病があります。皮膚の表側には有棘細胞の層からなる表皮があり、その下に線維や血管のある真皮があります。日光角化症はがん細胞が表皮内にとどまった状態をさしますが、日光角化症を長い間放置すると、がん細胞が真皮にまで浸潤した有棘細胞がんに進行することがあります(図1)。有棘細胞がんは他の場所に転移する可能性があるため、有棘細胞がんになる前の日光角化症の段階で治療ができることが望ましいです。

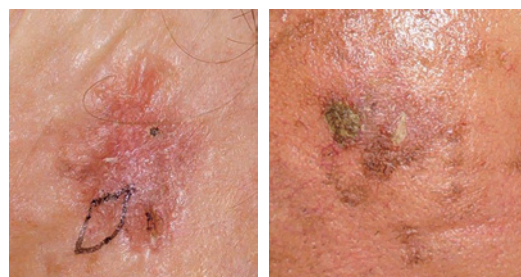
図1 日光角化症（前がん病変）と有棘細胞がんの違い



日光角化症の特徴

日光角化症は、顔や手の甲など、長年にわたり日光を浴び続けた場所に生じやすく、60-70歳代の年齢から多くみられるようになります。症状は表面がカサカサした赤みのある斑点であることが多く(図2)、1カ所だけでなく、多発することもあります。

図2 日光角化症の例



日光角化症の診断

病変部の皮膚の一部を切りとって、顕微鏡で細胞を確認して診断します。

日光角化症の主な治療法

①液体窒素による凍結療法

簡便で有効な治療法です。複数回、繰り返して行うことがあります。

②外科的切除

凍結療法をしても再発する場合に行うことがあります。顕微鏡の検査でがん細胞が表皮の全体にみられる場合は、有棘細胞がんの治療に準じて切除術を行います。

③イミキモド軟膏外用治療

日光角化症が多発している場合や手術や凍結療法をしにくい場合に行うことがあります。

日光角化症の予防法

日光角化症は、日に焼けても赤くなるだけで、黒くなりにくい肌のタイプの人に起こりやすいと言われています。そのような肌のタイプの方は、子供の頃から日焼け止めを使用して、過度に日光にあたらないようにすることが大切です。

(皮膚科 部長 竹尾 直子)



看護師ほか医療スタッフの
臨時職員を募集しています。
詳しくはこちら